



あかり木通信

2013年6月号

あかり木診療所

三年目を迎えて

二〇一一年六月二日にスタートしたあかり木診療所も早いもので三年目を迎えました。「すいているから」「院内処方なので手間がかからないから」と継続していらしてくださる方にも、ときには三十分以上お待たせしてしまいうこともあるようになってしまいました。そんなときには「診察はいいからくすりだけほしい」という方もいらつしやるのですが、少しのコミュニケーションを通して顔色、表情などの様子からもお体の調子をみさせていたいただきたいと思います。結果的に、いつも同じくすりが続いているような場合でも、お待ちいただき診察を受けてお帰りいただきましたと思います。

職員二名でつづけています

あかり木診療所は開院以来「職員二名・ピンチヒッターなし」の体制でつづけています。ピンチヒッターなしということは、ピンチはなかったのかといえそうですがありません。そんなときは、勝手ながら臨時休診とさせていただいています。休診日はなるべく前もって早い時期にお知らせするようにしています。お越しになってから休診とわかって帰られた方には申し訳ありませんでした。二名の職員のうち、院長は診察しかしていないので、もう一人は、受付と診療補助その他雑用全般を兼ねています。来院されても受付に姿がないときには、診察室で処置や検査の補助をしています。入り口の「鐘」の音でどなたかがいらしたことはわかりますので、少しお待ちください。また、電話対応も二名で行っていますが、医師の判断が必要な個別の症状に関するお問い合わせは、直接いらして診察を受けていただくようお願いしています。

待合室の過ごし方

診療所の小さな待合室で、〇歳からご高齢の方まで会話やふれあいの様子は、見てもうれしくなります。ときに、小さなお子さまは、たみスペースを存分に活用して遊びに夢中になることがあります。今のところは、他の方には大目にみていただいています。また、待合室の絵本は、大人の方にも読んでほっこり笑顔になっていただければと思います。何でも携帯電話やインターネットなどで予約ができる便利な世の中になりましたが、ときには待合室でのんびり過ごす『間』が必要なこともあるのではと考えています。そんな待合室で、これまでに「大きな音のゲーム」と「飲食」をされていた方には、注意してやめていただきました。

お子さまの診察

あかり木診療所には、おじいちゃん、おばあちゃんに連れられて診察に来る子もいます。そのなかに、今日はどうされましたか？とお聞きしても、娘（子どもの母親）に連れて行くようにたのまれたとか、保育園から呼び出されたという理由で、症状や様子がよくわからないことがあります。子どもは自分で症状をうまく説明できないので、いつからどのような状況なのか、今日は何を食べたのか、おしっこやうんちはどうだったのか、などさまざまな情報が病状を判断する重要な手がかりとなります。お子さまが受診するときには、経過がよくわかる人といっしょに、様子をくわしく聞いてからお越しください。

あかり「き」診療所

あかり木診療所のことを「あかりぎ診療所」と呼ぶ方が意外といらつしやいます。インターネットでも「あかりぎ診療所」と入力して検索する方がいらつしやるようです。正しい読み方は「あかりき診療所」と「き」は濁りません！ その「あかり木」ってどんな木ですか？本当にある木ですか？意味は？などのご質問もよく受けますが、それを語るにはスペースがなくなりましたので、またの機会に…。